

令和7年度小学校教科担任制実施報告書(高学年型)

学校名
安芸高田市立吉田小学校

1 学校の概要

(1) 学校の学級数

	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
学級数	1	1	2	2	2	2	10	3	13

2 加配教員が専科指導を行う教科及び週当たりの担当授業時数

(1) 第5、6学年の指定教科

指導教科名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
理科	5	2	3	6	
理科	6	2	3	6	
算数	5	2	5	10	

授業時数 計 22 (a)

(2) その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
				0	

授業時数 計 0 (b)

授業時数 合計 22 (a)+(b)

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	2	1	2	1
6年 1組 (担任: A)	B	B	C	A	推進	A	A	B	C	D	A	A	A
6年 2組 (担任: B)	B	B	C	A	推進	A	A	B	C	D	B	B	B
週当たり標準授業時数	5		2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	2	1	2	1
5年 1組 (担任: C)	D	D	B	推進	推進	A	D	D	C	C	C	C	C
5年 2組 (担任: D)	D	B	B	推進	推進	A	D	D	C	C	D	D	D

4 高学年担任が指導を行う教科等及び週当たり授業時数

学年・学級	児童数(人)	担任	担任する学級以外の授業時数(週当たり)				担任する学級の授業時数(d)	授業時数の合計(c)+(d)
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計(c)		
6-1	28	A	6-2	算数	5	10.6	11.8	22.4
			6-2	音楽	1.4			
			6-2	図工	1.4			
			5-1	音楽	1.4			
			5-2	音楽	1.4			
6-2	27	B	6-1	国語	4	13.4	10.6	24
			6-1	書写	1			
			6-1	家庭	1.6			
			5-1	社会	2.9			
			5-2	書写	1			
5-1	24	C	6-1	社会	3	15.8	8.6	24.4
			6-1	体育	2.6			
			6-2	社会	3			
			6-2	体育	2.6			
			5-2	体育	2.6			
5-2	23	D	6-1	外国語	2	12.1	11.1	23.2
			6-2	外国語	2			
			5-1	国語	4			
			5-1	書写	1			
			5-1	図工	1.4			
			5-1	家庭	1.7			

5 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

〈効果のあった取組〉	
①	<p>授業の質の向上 担当する教科を絞りこむこと、複数年担当し積み重ねることで、指導の全体像を十二分に把握した上で学力の向上へ向けて周到な準備ができた。児童に提示する資料も豊富に準備ができた。その結果、分かりやすい授業が生まれ、学びに向かう姿勢や学力の向上の保障につながった。</p>
②	<p>多面的な児童理解 教科担任制を実施することで、教科ごとに担当者が変わる、担当者によって子どもとらえ方は異なる面がある。それを高学年担当者と共有し児童理解に努めた。</p>
④	<p>指導者の負担軽減 同学年複数学級の担当をすることで、授業研究に係る時間を効率化できた。その結果、授業準備を充実させることもできた。</p>



〈成果〉	
①	<p>4年生の時と比較すると「学びに向かう姿勢」の向上が5年生において顕著であった。ただし、テストの結果は「単元テストの平均値80%以上の児童が85%以上」という目標には達しなかった。5年生は算数の基礎・基本の力は伸びてきた。ただ指標に照らせば到達していない。5年の算数は基本が71%、応用45%。同様の順で、理科は5年70%、65%、6年86%、58%である。しかし、授業の準備が十分であり、分かりやすい授業を意識して進めたことで、特に基礎学力は着実に向上している。</p>
②	<p>様々な視点から児童の姿を複眼的に理解することができた。その際に担当者間で共通して課題だととらえた点については、主として学級担任が指導を行ってきた。</p>
④	<p>授業研究の負担軽減につながり、集中して授業づくりに取り組めた。授業研究の時間が半分ですむことで掲示物の作成もより充実させることもできた。さらには、一方の学級を指導して指導面の課題を理解した場合、他方の学級の指導を改善して授業を行えるメリットもあった。</p>

〈課題〉	
①	<p>授業の質の向上 単元テストの結果は、6年生の理科「知識・理解」を除いて、「単元テストの平均値80%以上の児童が85%以上」という目標には達しなかった。</p>
②	<p>多面的な児童理解 教科担当者と学級担任との連携は主として短い休憩時間や放課後の時間であった。このような連携を小刻みに行ってきたが、その連携が点で終わってしまうこともあった。</p>



〈対策〉	
①	<p>授業内で確実に適用題に取り組めるようにすること、協同学習を充実させることなど、授業改善に取り組むことで、学習内容の定着を図る。また、今年度以上に練習問題に取り組むこと、協同学習をより充実させるための授業改善に務めることで、学んだ事項の定着をより図る。</p>
②	<p>教諭間の指導の方向性や方法についてすり合わせを行い共同歩調で次の2点に取り組む。 ・ブロック会で共有内容や指導の方向性等を確認する。 ・授業担当として積極的に授業における児童の様子を学級担任に伝えるよう努力する。</p>